資料８

地域の明るい未来フォーラムin最上

地域の明るい未来に向けた鮭川村の取り組みについて

鮭川村長　西野 桂一



村の紹介 ①

鮭川村について

山形県最上地方に位置する村

村の中央を流れる「鮭川」が村名の由来。秋になると多くの鮭が遡上する姿が、四季の暮らしの象徴となっています。

米・ブロイラー・きのこ

農畜産物は米・ブロイラー・きのこが中心。なめこ等のきのこ類は国内有数の生産量を誇ります。

村土面積

122.14 km^2

（県内32位、県全体1.3％）

村土構成

森林：64.7％、農地：17.6％

人口

3,371人（令和7年度末）

昭和29年：3村合併（鮭川村・大豊村・豊里村）
人口8,810人（過去最多）
※昭和30年国勢調査より

村の紹介 ②

地域資源・産業と伝統文化



米

村の基幹産業・農業を支える中心的な作物



ブロイラー

畜産の主力として村の農畜産業を支える



きのこ（なめこ 等）

国内有数の生産量を誇る特産品



伝統芸能

鮭川歌舞伎・羽根沢節など郷土芸能が継承

村の紹介 ③

観光資源・交流拠点



小杉の大杉

樹齢1,000年を超える天然杉。幹の芯が2本あることから「夫婦杉」「縁結びの木」として親しまれる。



羽根沢温泉

pH8.4の弱アルカリ性、県内でも数少ない間欠泉。「美人の湯」として知られ、令和3年に開湯100周年を迎えた。

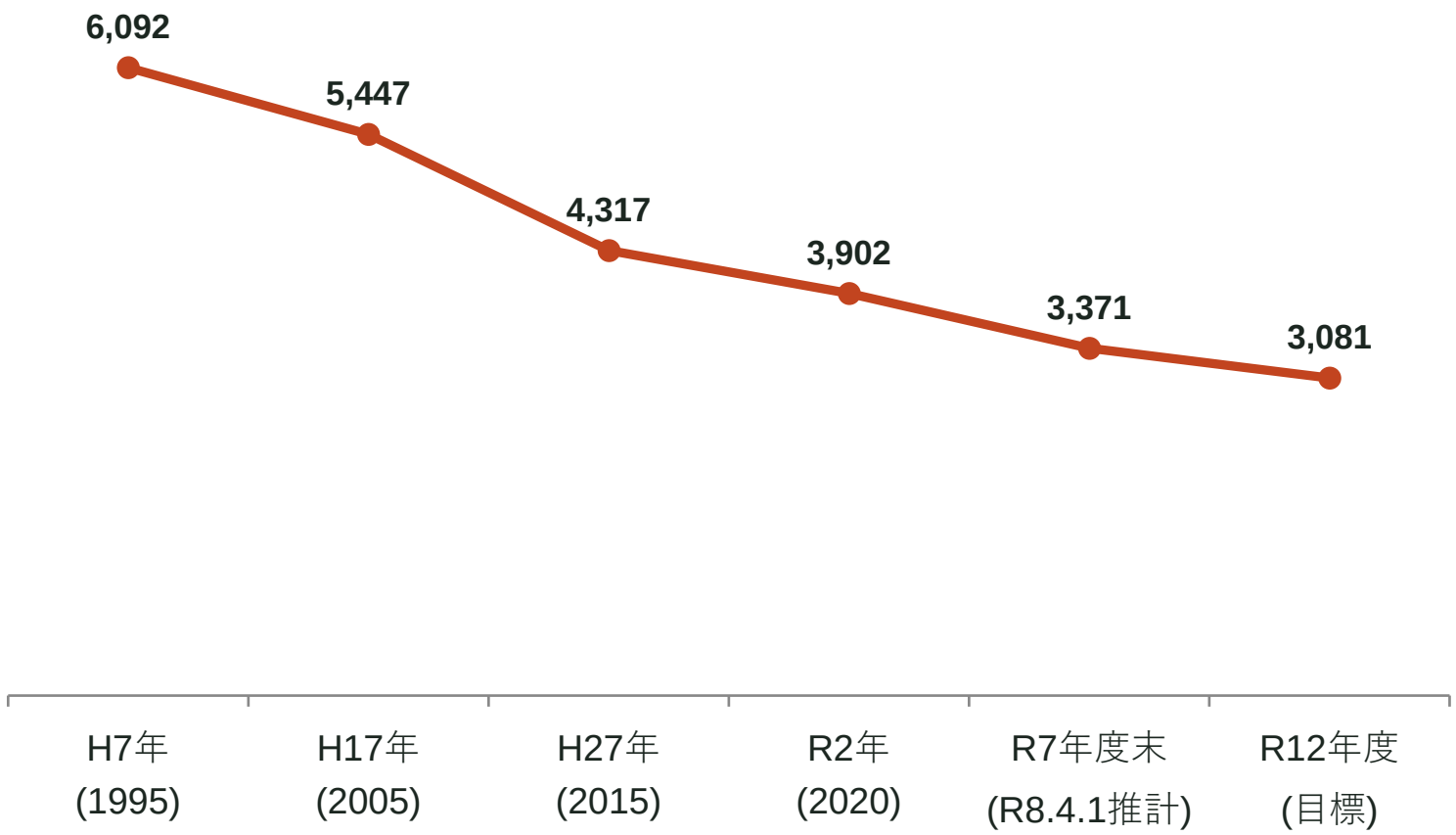


エコパーク（きのこの森・鮭の子公園）

オートキャンプ場等を備えた自然体験拠点。指定管理者制度による運営体制の見直しを推進中。

現状と課題

人口減少という共通課題



国勢調査・山形県推計人口

この10年で減少率
8.6%
（約950人減少）

平成27年の4,317人から令和7年度末には3,371人へ。第3次総合発展計画では、令和12年度に3,081人の維持・確保を目標としています。

将来ビジョン

目指す将来像（10年後の姿）

第3次鮭川村総合発展計画（令和3～12年度）が掲げる将来像

多世代と自然が織りなす“うるわしの里” さけがわ

将来像を実現するための「未来への宣言」 ―生きたい・活きたい・行きたい村―

生きたい村

清き村を持続し、多世代で適した村を創り上げます

活きたい村

個性を活かし合う世代を、支えます

様々な多様なたてし村に超えます

行きたい村

守り交しをかとに自然活人村のてるなしくきかそ多です

豊かな自然、流ます

第3期総合戦略（令和8～12年度）が重視する4つの視点

- DXの推進
- 外部活力の導入
- 既存資源の最大限の活用
- GXの推進

移住・定住の促進 ―社会減対策の強化―

移住・定住施策を強化する取組

シティプロモーション

観光大使などと自然・特産品・暮らしの魅力をSNSや移住セミナー・ツアー・イベント等で発信し、認知度と移住相談の裾野を拡大。

定住促進住宅の整備

「さけまる定住促進住宅」を平成29年度から整備し、現在15棟（17戸）を運用。目標20戸以上（令和12年度）へ拡充。

移住コーディネーターの配置

令和8年度から専任の移住コーディネーターを配置。相談対応から住まい・仕事探しまで伴走し、支援体制を強化。



観光大使マッコイ斉藤氏による取材風景



さけまる定住促進住宅の外観



令和８年やまがた移住交流フェア参加状況

移住・定住の促進 ―社会減対策の強化―

移住・定住施策を強化する取組（空き家改修事業）
（地域づくり連携協定（４者協定：山形県・鮭川村・山形県住宅振興公社・東北芸術工科大学））

空き家活用住宅改修（定住促進住宅として活用）

空き家を活用したモデル事業として、これまで２戸の空き家のリフォームを４者協定により整備し、定住促進住宅として活用。



令和元年度空き家活用住宅改修・外観

小杉地区地域活性化の取組

空き家除却し、小杉地区駐車場として利活用。
東北芸術工科大学と連携し、地域の活性化に向けて取り組み、小杉の大杉マルシェを開催し、定着化と地域の活性化。



令和７年度小杉の大杉さんぽみち（小杉地区マルシェ）開催状況

シェアハウス

空き家対策総合支援事業補助金交付金を活用し、空き家管理指定法人「温故知新」より村内小杉地区にある空き家を改修。



令和７年度空き家対策総合支援事業によるシェアハウス小杉募集チラシ一部

重点プロジェクト・主要な施策 2/2

外部人材の活用・地域資源のブランド化・広域交流

地域おこし協力隊の活用

多様な人材を協力隊として登用し、外部の視点を取り入れた地域づくりを推進。
・延べ人数１６名（H２３～）
・村内起業３名、村内就業２名、村内就農１名、県内就業６名



令和７年度地域おこし協力隊集合写真

そのほかの外部人材の活用

地域活性化起業人（副業型）によるDX推進、集落支援員制度を活用した日本郵便との業務委託による地域の課題聞き取りを順次開始。



令和８年７月１日付地域活性化起業人（副業型）の初登庁

村の花「ミチノクヒメユリ」の保存・商品化

新庄神室産業高校の種子保存・増殖の取組を起点に４者連携協定を経て協力隊による取組強化により、企業との連携し、化粧水の商品化が実現。



村の花「ミチノクヒメユリ」と「化粧品」

重点プロジェクト・主要な施策 2/2

外部人材の活用・地域資源のブランド化・広域交流

観光資源の高付加価値化

小杉の大杉・羽根沢温泉等を活かした通年型・体験型観光コンテンツを創出。観光入込客数596百人→1,000百人以上が目標。

広域連携の推進

戸沢村・大蔵村と共同で「やまがた村祭り」（東京・高円寺）を開催するなど、定住自立圏での広域連携を推進。

伝統文化の継承と都市交流

荒川区との「鮭の里親事業」（H24～）等、東村山市・桑折町・伊奈町とも交流し、鮭川歌舞伎等の郷土文化を発信。



冬の小杉の大杉



令和７年度やまがた村祭り開催状況（東京・高円寺マシタ）



鮭の里親事業による鮭の稚魚の放流状況

小さな村だからこそのフットワークで、山形県の目指す「真の豊かさと幸せを実感できる山形」の実現に貢献します。